

見える情報 見えない仕組み

～AI時代の消費者力を高めるために～

デジタル化の進展に伴い、商品やサービスの情報を容易に入手できるようになりました。その一方、本物と見分けがつかないような偽情報が作成・拡散される状況も増えてきています。

安全・安心な消費生活を営むため、デジタル技術がもたらすリスクに関心を持ち、偽・誤情報には注意しましょう。

「見える情報」は本当に真実？

インターネットにより、私たちは、非常に多くの情報に接しています。

しかし、それらのすべてが真実とは限りません。

情報の真偽を確かめることや正確性が確認できない場合、安易に拡散しないなど、日頃から注意して情報に接することが大切です。



埼玉県マスコット「コバトン」

「見えない仕組み」・リスクに関心を持とう！

あなたは「見えない仕組み」に誘導されていませんか？

インターネットでは、利用者の年齢・性別・興味・検索履歴等に応じた広告や情報が表示されやすくなります。悪意ある広告・情報に騙されないためには、

- 魅力的な広告・情報に飛びつかず、事業者名や評判等を確認する。
- 上位に表示される広告・情報だけでなく、下位のページまで見て判断することなどに注意し、主体的に判断しましょう。

偽・誤情報に惑わされないため、次の点に注意しましょう

- 情報源はある？（どこから、いつ発信された？ 根拠情報が今もある？）
- 発信者はその分野の専門家？（専門家が責任をもって発信している？）
- 他ではどう言われている？（他のメディア等で反対の意見はない？）
- その画像は本物？（その画像を検索したら、別件でヒットしない？）

*「見える情報 見えない仕組み ～AI時代の消費者力を高めるために～」は令和8年度消費者月間（5月）の統一テーマです。



消費者月間のページ